

主な取組

●「あんしん水道ライン」の整備

震災等の大規模災害時にも、一定の水量を供給するため、主要な系統を「あんしん水道ライン」と定め、段階的に施設の更新・耐震化に取り組んでいます。

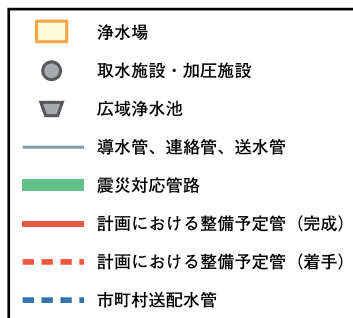
●系統連絡管等の整備

事故時や災害時のバックアップ能力を強化するため、系統連絡管の整備や送水管路の2重化、ループ化に取り組んでいます。

系統連絡管等の大容量送水管は、非常時に備えた貯水機能を有しており、災害時には応急給水拠点としての活用も可能です。

震災対応管路の設定

「あんしん水道ライン」上の送水管路のうち、震災時においても各市町村にある少なくとも1か所の受水分岐に送水するための管路を「震災対応管路」として設定し、同管路の更新・耐震化と同管路上の浄水池・ポンプ場の耐震化を優先的に進めます。



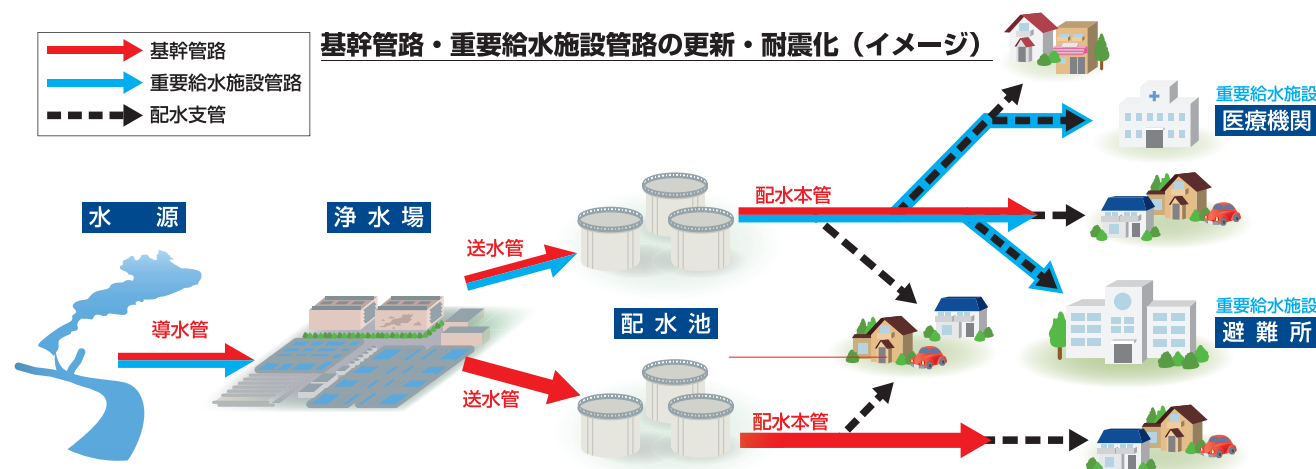
※計画：大阪広域水道企業団経営戦略2020～2029



災害に強い水道施設の構築

震災等の災害時においても可能な限り給水が継続できるよう、基幹管路と重要給水施設管路の更新・耐震化を優先的に進めます。

また、風水害に対応するため、重要施設の浸水対策や非常用電源の確保など停電対策に取り組めます。



その他の取組

災害用備蓄水

持ち運びに便利なアルミボトル缶の備蓄水（内容量490ml）を大阪府内に100万本配備



災害時支援協力員（水道あしすと）

拠点給水施設での応急給水の補助や施設の被害情報の収集を行うボランティア団体



被災地での応急給水活動

被災地の給水活動拠点において自衛隊と連携して給水活動に従事



拠点給水設備（あんしん給水栓）

災害時に市町村水道の給水活動を支援するための設備



給水車

大規模地震などの災害発生時の応急給水活動に使用する給水車



2022年度末

最低限の日常生活を維持できる水量

60 万m³/日

1人1日 約100L
×
600万人

2032年度末

最低限の社会経済活動を維持できる水量

100 万m³/日

1人1日 約100～250L
×
600万人